

様式第 4 号（英語指導法改善研究）

宜小発第 291号  
令和7年 2月 7日

宜野湾市教育委員会  
教育長 仲村 宗男 様

宜野湾市立宜野湾小学校  
校長 兼城 勲

指定研究実績報告書（英語指導法改善研究）

令和 6年 4月 8日 宜教指第 71号による指定研究を終了しましたので、  
下記のとおり研究実績を報告します。

- 1 研究報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1部
- ① 研究主題
  - ② 研究主題の設定理由
  - ③ 研究の主な内容
  - ④ 研究の成果と課題
  - ⑤ 外部評価 ※令和3年度より新規追加

# 令和6年度 宜野湾小学校の取り組み（指定研究実績報告書）

## 1 研究主題名

異文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成  
～「触れる」「慣れる」「親しむ」外国語・外国語活動を通して～

## 2 研究主題設定の理由

本校は、宜野湾市の小学校英語教育課程特例校事業によるこれまでの取り組みを活かし、5～6年生は教科としての「外国語」の実施の他、3～4年生の「外国語活動」に加え、1、2年生から「英語に触れる・慣れる」ことを目的に、歌やダンス、チャンツ、絵本の読み聞かせなどの活動を通して、楽しく英語に触れさせてきた。その成果として、ALTの発音をまねして楽しく練習したり、ゲームやリスニング、場面設定での会話のやりとりを通して、ALTの先生に英語で伝えようとする児童が増えるなど、楽しく意欲的に活動に取り組むことができている。

一方、外国語を「話せるようになりたい」という意欲の高さは伺えるものの、間違ふことを恐れてしまい、学年が上がるにつれ、「話すのが恥ずかしい」「間違ったら笑われる」「頭が真っ白になってうまく聞き取れない」といった理由で外国語に対して苦手意識を持っている児童もいる。

これらのことから、苦手意識を払拭できるよう、低学年から自信をもって外国語に親しめるよう授業の工夫・改善を更に推進していく必要がある。そのためには、ALTとHRTで授業の打ち合わせを綿密に行ったり、研修に積極的に参加して外国語のスキルアップを図ったりして、児童・教職員どちらも自信をもち楽しく外国語に「触れる」「慣れる」「親しむ」ことを目指す。

## 3 研究の主な内容

(1) 本校の外国語教育・外国語科のねらいを踏まえて外国語学習（外国語活動）の充実を図る。

- ① 外国語（活動）の進め方や学習意義等について、学習開始前に全職員に対し、ALTによるオリエンテーションを実施。（4～5月）
- ② 英語ルームでのルールの確認やあいさつの仕方、掲示物の工夫。
- ③ T1（HRT）と T2（ALT）の教材研究・ミーティングの充実。
- ④ 振り返りカードの具体的な書かせ方⇒振り返りの視点（【what「今日学んだこと」】【so what「思ったこと」】【now what「これから、やりたいこと（活用できそうか）】】の定着。
- ⑤ クラブルームイングリッシュや基本的なあいさつなど、各学級でいつでも使用できるよう、校内LAN、Googlechrome、電子黒板、デジタル教科書等を整備。

(2) 英検 Jr.の実施

- ① 実施期間：12月2日（月）～12月5日（木）
- ② 対象学年：5年生（ブロンズ）、6年生（シルバー）

### (3) 小学校英会話形成的評価の実施

- ① 実施期間 : 12月2日(月)~12月13日(金)
- ② 対象学年 : 1~4年生

### (5) ALT における今後の行事・研修会

- ① 指導主事による ALT 英語授業参観① : 5月27日(月) 5校時
- ② ALT 授業実施に関するアンケート実施 : 7月
- ③ ALT・HRT・英語科担当教諭合同研修会 : 11月21日(木)
- ④ 指導主事による ALT 外国語授業参観②及び個人面談 : 11月19日(火)
- ⑤ ALT 情報交換会 : 12月17日(火)

## 4 研究の成果と課題・対応策

### 【成果】

- 毎時間ワークシートにめあてと振り返りを書くことで、自己評価をすることができた。
- 授業形態(個人→ペア→全体)とリズム良く流れていてよかった。
- 多様なゲームがあり、子どもたちも盛り上がり、英語を楽しく学ぶことが出来ている。
- 授業や教具の準備等も、ALTが協力してくれるのでとても助かっている。
- ALTが英語で指示を出すことで児童が耳で聞き取れる言葉が増えてきた。
- 授業の流れが(あいさつ、ルール、めあて、ふりかえり)まで決まっているので、授業がしやすい。
- 単元のゴールまでの計画が毎時間示されるので、見通しをもって取り組んでいる。
- 自分の気持ちや好きなことを英語で積極的に伝えようとする児童が増えてきた。  
(I'm~. / I like~.)
- 1年生のころから同じ授業の流れなので(Greetings,the rules,songs,review~)子どもたちにもあいさつや初めのやりとりの英語が定着している。
- 活動を通して外国語に関心を持つことができた。楽しく活動できた。
- リトミックが効果的でよかった。
- 電子黒板などのICT機器を活用して、映像やイラストなど視覚的にみて理解できる教材を使用したり、ゲームなどの活動を取り入れることで児童も楽しんで参加することが出来ている。
- 名札を使用していなかったため、活動がしやすかった(なくても良い)
- 児童の実態に応じてALTが関わってくれるので児童も楽しく安心して参加することができる。

### 【課題・対応策】

- 英語のスキルが高い教員が増えてきたが、以前不安、負担感が否めない。  
→専科にした方が良いのではないか。(高学年は教科担任制で対応)
- 英語が聞き取れない子の苦手意識が強い  
→様子を見て担任がサポート
- シーズンクラフトが少し難しく、時間内に終われないことがあった。  
→時間内に終わるようにクラフトを易しいものにしたたり、事前準備をしたりするな

ど、検討が必要。

- 振り返りの時間が足りない。

→ 振り返り時間を確保するためのタイムマネジメントを事前の打ち合わせ等で検討する。

- ICTの活用（一人1台）について。

→ 普段の授業でも活用したり、どのように活用するのか見本を提示する。

- 言語活動を行う際、どういう英語を使うのか、何のために活動をするのかが理解しないままスタートしてしまうことがある。

→ 目的意識を持たせてからスタートさせる。教師がモデリングをしてお手本を見せてから活動に入る。

- 児童同士の英語のやりとりの活動の時に日本語を使ってしまう児童がいる。

→ 教師が間に入ったり、できている児童をお手本にしたりする。

- 授業の内容を前日までに知らせてもらえると対応しやすい。

→ ALTと事前の打ち合わせを行う時間を確保する。

- 学習環境について（英語ルームだと椅子や机がないため、落ち着きや集中力がなくなってしまう。）

→ 学年の実態に応じた教室環境を整備したり、学習のルールを確認したりする。

- 今年度の宜野湾小学校の外国語・外国語活動にて一番困ったことは、2か月近くALT不在で、担任がHRTとT2と両方行う負担過重が認められ、非常に大変であった。

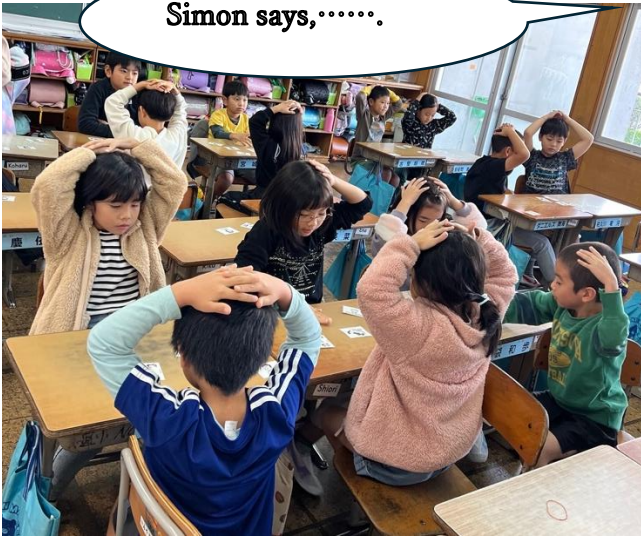
英語活動実践の様子

低学年（1、2年生）

低学年では、英語に「触れる・慣れる」ことを目標に学習を行ってきた。歌、ダンス、チャンツ、ゲーム、絵本の読み聞かせなどの活動を通して、楽しく英語に触れさせた。



Simon says,.....



Grandmother!!



中学年（3、4年生）

中学年では、「英語に慣れる・親しむ」ことを目標に教科書 Let's Try の学習を行ってきた。歌、チャンツ、インタビュー、Show and Tell などの活動を通して、基本的な英語表現に慣れさせた。

3rd graders

Let me try!!



piedra tijera papel

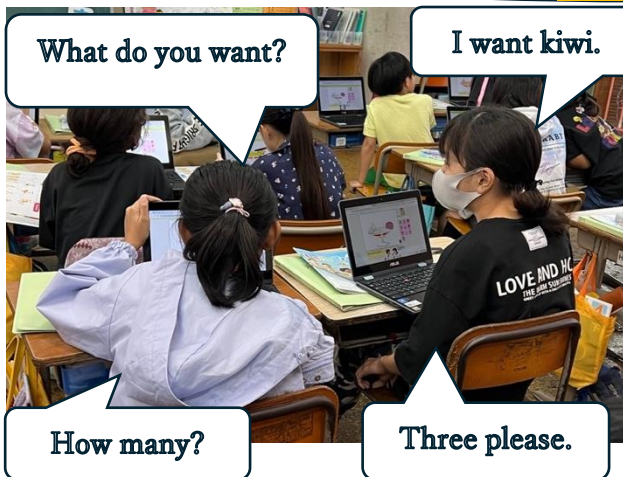


パウイ カウイ ポ!!



いろいろな国の言葉でじゃんけんしよう

## 4th graders



休み時間に...

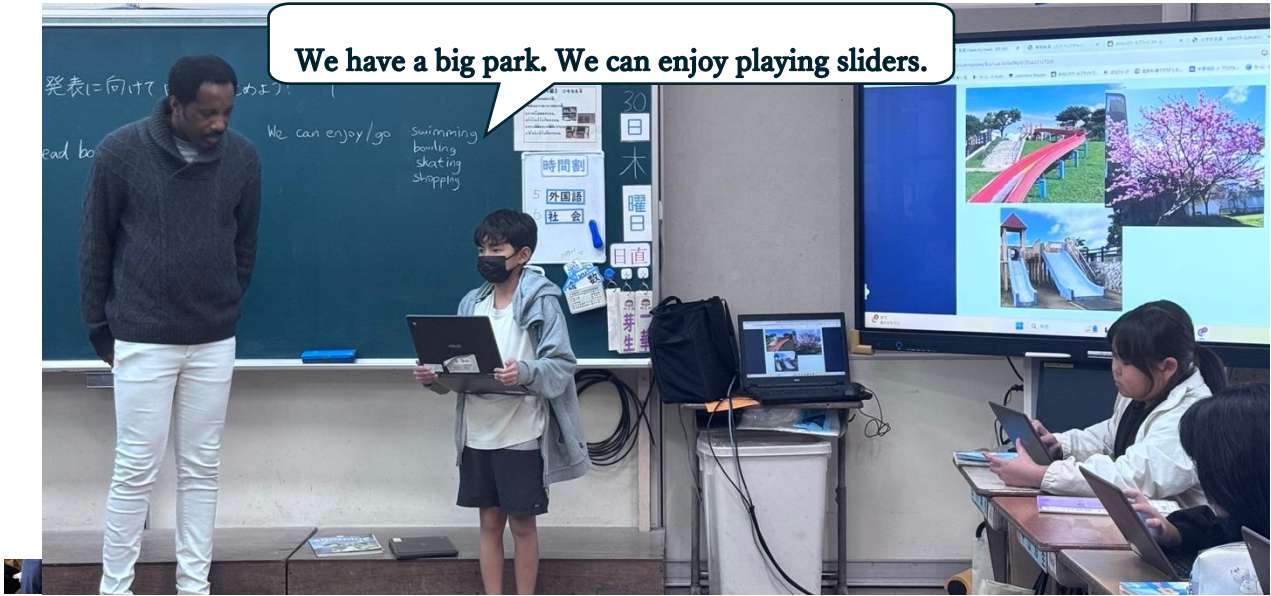


## 高学年（5、6年生）

高学年では、「英語に慣れ親しむ・英語を使う」ことを目標に教科書 One World Smiles の学習を行ってきた。スキット、インタビュー、Show and Tell、体験的活動を通して、英語表現に慣れ親しませ、楽しくコミュニケーションを図らせた。また、英語を書く活動にも触れ、文字に慣れ親しませた。

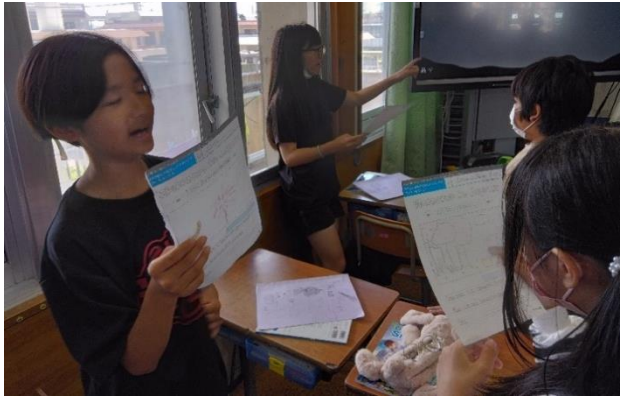
## 5th graders





6th graders

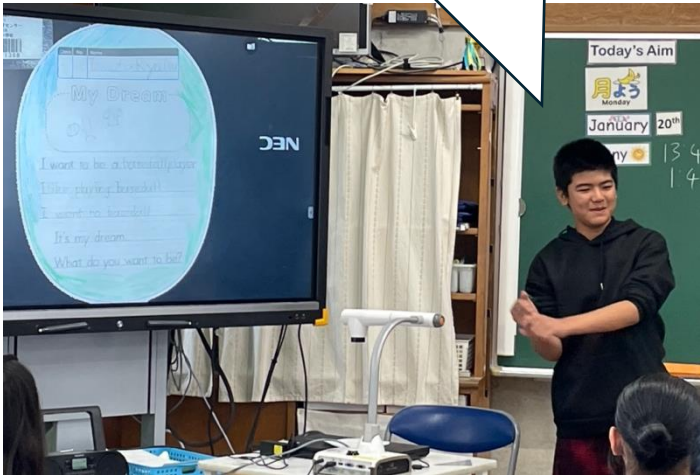
Welcome to Japan!! I like Japanese festival.



We can eat sushi!



I want to be a baseball player.





# 学校関係者による英語活動の評価について

氏名

令和6年度

同封している「英語指導法改善研究」の実績報告書と下記の児童アンケートを参考に、本校の英語活動の評価をよろしくをお願いします。

## 英語活動に関する評価

宜野湾小学校の子どもたちは、英語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとしていますか？	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない							
ご意見	<p>①令和5年度に比べて令和6年度は4～6年生がかなり「とても好き」が増えているのが良いと思う。1年生の「97（と多いの）」は何故なのか？あと、3年生の「20（と落ち込んだ数値は）」何故なのか？昔と違って、文法中心ではないのが良いのだろう！</p> <p>①教材のテーマが生活の中で使う言葉、単語として、興味から取り入れて、楽しく参加している風景は終始笑顔が見られた。実践から身に付く授業が見られた。ねらいに沿った展開で学ぶ意欲に繋がっている。</p> <p>②子ども達の表情から、楽しんで取り組んでいる様子が見受けられた。</p> <p>③【評価の根拠】「そう思う」と回答したのは、令和6年度の1年生は全員肯定的回答。2年生以上は前年度と比較すると3年生以上は肯定的意見が増えている。学校は階段等を利用して英語活動のカードを貼り児童の興味・関心を持たせている。 【感想】1年生が全員肯定的回答したことが「授業の展開に好きにさせるヒント」がありそう。縦断的な評価を行えば、各学年の経年的傾向・評価ができそうな気がする。「現在の学校評価資料は、前年度の比較で終わっている」。回答用の設問が気になる。「あなたは英語でコミュニケーションをとることが好きですか？」 ⇒※下線部分の説明で回答へのハードルが高くなりそうな気がする。</p> <p>④カードを使用してリズムカルな店舗で楽しみながら学んでいる様子が良い。</p> <p>⑤子どもたちが英語に親しみを持っているのがすごく感じた。</p>										
	委員	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	計	平均
点数	4	4	4	3	4	4	4	4	31	3.9	